

I 全体の状況

<復興の取組状況>

迅速な復興の実現に向けて、スピード感を持って効果的・効率的に取組を進めるため、復興計画に基づき、平成 23 年度には、まず、被災地の復旧・復興の第一歩となる緊急的な取組を重点的に進めた。

《主な緊急的な取組》

①「安全」の確保

災害廃棄物の早期撤去、防災施設の応急的な復旧、防災施設や住民生活を支える道路等の応急的な復旧、原発放射線影響対策 など

②「暮らし」の再建

応急仮設住宅や仮設集会施設等の早期整備、雇用対策基金等を活用した離職者等の雇用創出、仮設診療所等の早期整備、被災者のこころのケア、学校施設の早期復旧整備、被災市町村の行政機能の早期復旧 など

③「なりわい」の再生

漁業協同組合を核とした「共同利用システム」の構築による漁船・養殖施設等生産手段の早期整備、産地魚市場の早期再開、企業等の二重債務解消に向けた支援を行う「岩手県産業復興機構」の設立、仮設店舗・事業所等の早期整備支援、グループ補助による施設の復旧・整備支援 など

これら緊急的な取組と並行して、本格的な復興に向けて、平成 25 年度までの 3 年間の復興基盤の構築を目指し、復興実施計画（第 1 期）に盛り込んだ 441 事業（再掲を含む。）を集中的に進めている。

<計画の進捗と課題>

平成 23 年度中間目標に対する進捗をみると、「計画以上」、「順調」となっている指標は 325 指標（77.4%）、また、平成 23～25 年度（第 1 期）目標に対する進捗率をみると、「80%以上」となっている指標は 166 指標（39.5%）となっている。

これは、平成 23 年度については、概ね 1 年以内で取り組む緊急的な取組の割合が高く、その実施によって一定の事業進捗が図られたことが考えられる。

また、平成 23 年度中間目標に対する進捗では、95 事業（22.6%）が「遅れ」、「未実施」となっているが、その要因としては、他の有利な制度を活用することにより実質的に事業を実施したこと、復興事業の緊急度・優先度の観点から先送りしたこと、事業の支援対象からの実際のニーズが計画を下回ったことなどが挙げられ、復興実施計画を策定した段階での不確定要素による影響もみられる。こうした「遅れ」等が生じた事業については、引き続きその要因を把握し、必要な見直しを行っていく必要がある。

こうした中、「復興意識調査」の結果によると、岩手県全体の復旧・復興の実感について、県全域では、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合が約 6 割となっている。

また、施策別の復興促進ニーズ度をみると、「被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保」が最も高く、次いで「被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給」、「震災による離職者の再就職に向けた取組」などとなっており、雇用の確保のための「なりわい」の再生と住環境の整備等による「暮らし」の再建が急務となっている。

以上のように、本格的な復興に向けた基盤づくりが進みつつあるものの、県民の復興意識として復旧・復興への実感がいまだ十分に得られていない状況を踏まえ、今後、各分野の復興の取組をさらに加速させていくこと、それによって復興の動きを顕在化させ、被災者が復興の歩みを実感できるようにしていくことが重要である。

このため、復興の取組が遅れている分野・地域への必要な人材や資金の重点的な投入、復興の取組を進める上でのボトルネックの解消、復興に関する各種情報の被災者へのきめ細かな提供等について十分に留意しながら、被災地域と被災者一人ひとりの迅速な復興を実現することが必要である。

事業進捗

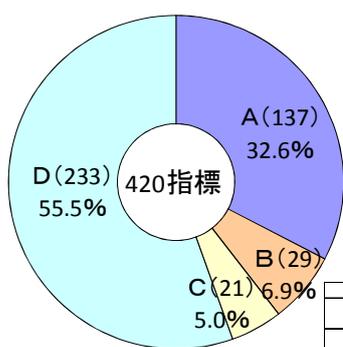
復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況（平成23年度）[平成24年4月26日公表]

発災後これまでに実施した事業の第1期末の目標に対する進捗率は、合計441事業（再掲を含む。）に係る420の指標から見ると約40%が「80%以上」となっております。今後、第1期の最終年度（平成25年度）の指標達成に向け、各事業の進行管理を適切に進めていきます。

なお、平成23年度中間目標に対する進捗率では、420の指標から見ると約23%で「遅れ」等が発生しています。

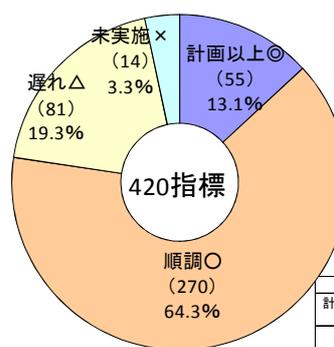
<第1期末目標に対する進捗率>

- ・「A」及び「B」（80%以上）166指標（39.5%）
- ・「C」及び「D」（80%未満）254指標（60.5%）



<平成23年度中間目標に対する進捗率>

- ・「計画以上◎」及び「順調○」325指標（77.4%）
- ・「遅れ△」及び「未実施×」95指標（22.6%）



県民意識

復興意識調査

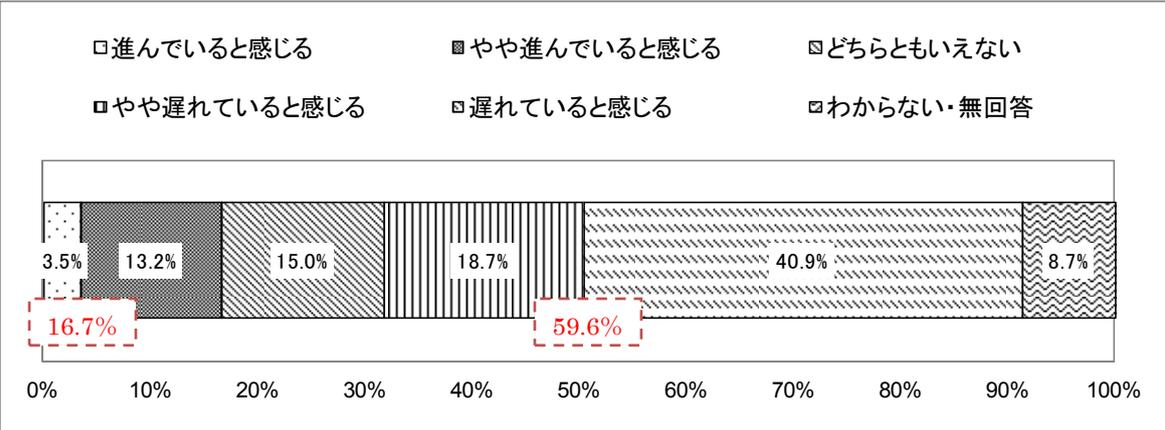
● 全般的な復旧・復興の実感などについて

(1) 岩手県全体の復旧・復興の実感

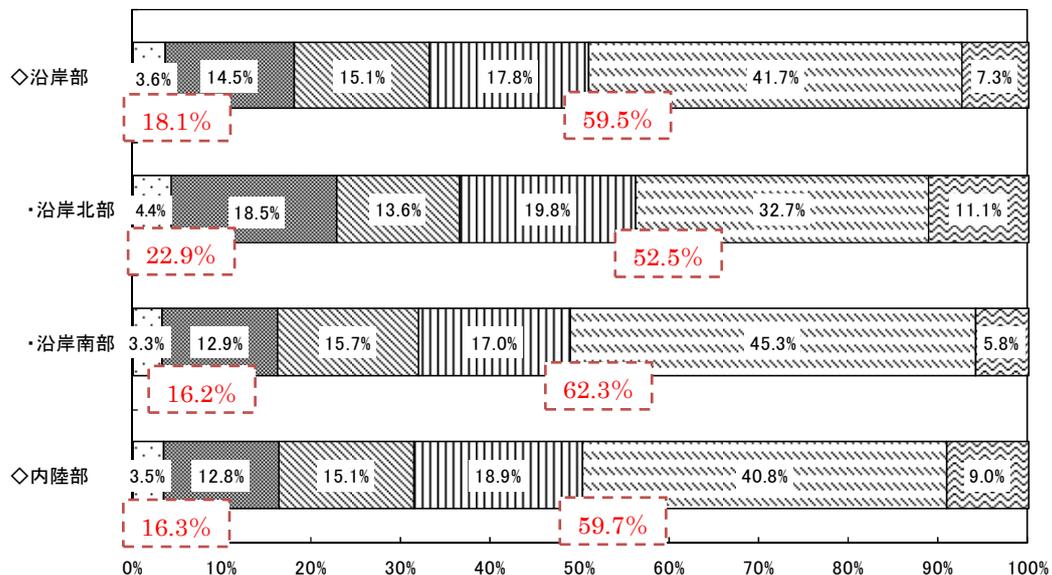
○岩手県全体の復旧・復興の実感について、県全域では、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合（59.6%）が高くなっている。

地域別に見ても、沿岸部、内陸部共に、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合が高くなっている。

【設問】
岩手県全体をみて、震災からの復旧・復興が進んでいると感じますか。



<地域別>



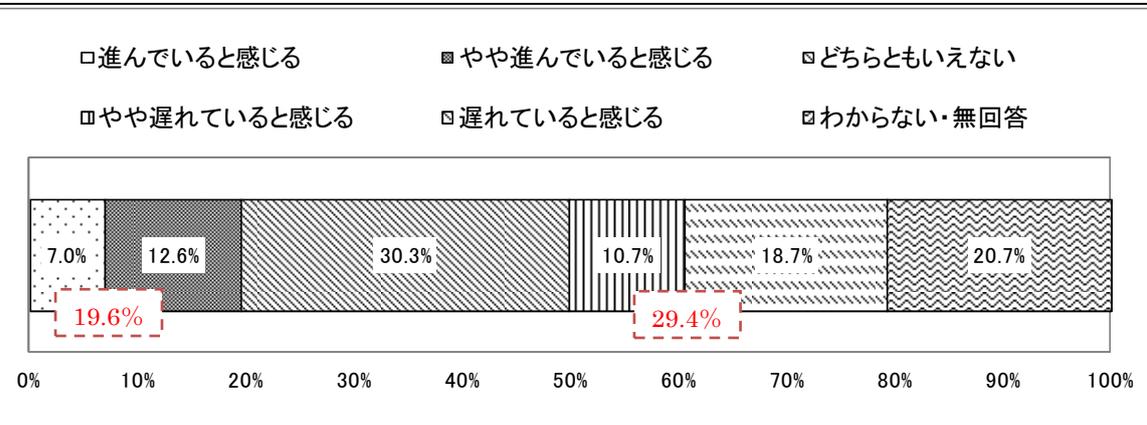
(2) お住まいの市町村の復旧・復興の実感

○お住まいの市町村の復旧・復興の実感について、県全域では、「どちらともいえない」の割合（30.3%）が高くなっている。「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合が、29.4%であった。

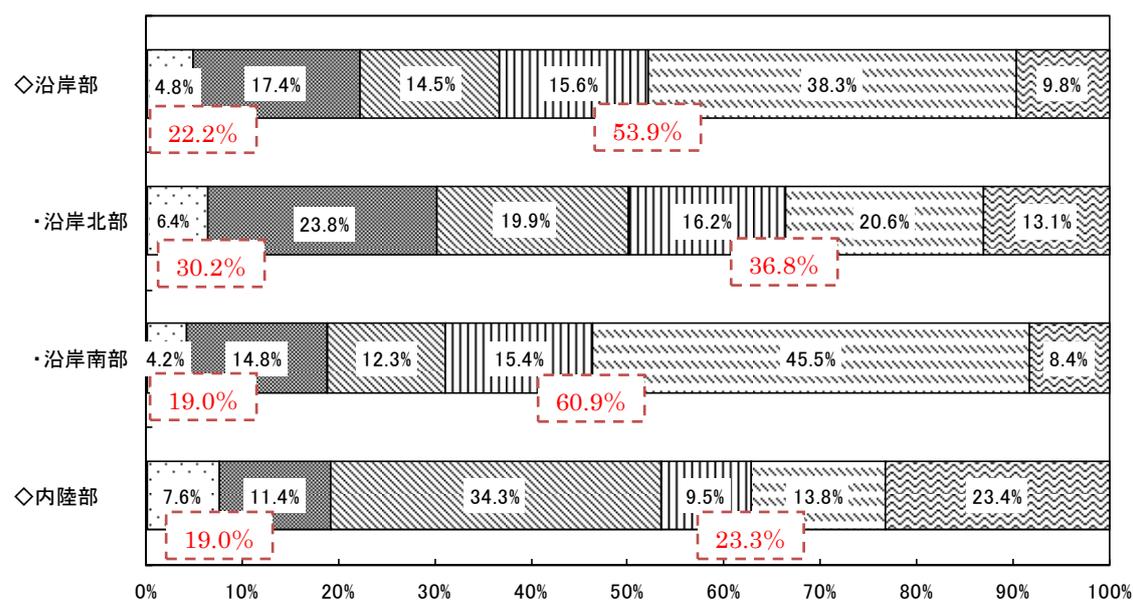
地域別に見ると、沿岸部では、「やや遅れていると感じる」「遅れていると感じる」の割合（53.9%）が高く、内陸部では「どちらともいえない」の割合（34.3%）が高くなっている。

【設問】

あなたが住まいの市町村をみて、震災からの復旧・復興が進んでいると感じますか。
 なお、震災時にお住まいだった市町村から転居されている方は、震災時にお住まいだった市町村の状況について、お答えください。



〈地域別〉



● 施策別の復旧・復興の重要度・実感などについて

○施策別の復旧・復興の重要度・実感などについて、重要度に比べて、進捗への実感は一般的に低い水準にあり、復興促進ニーズ度（「重要度」－「進捗への実感」）も一定の高い水準となっている。

【設問】

復興計画の3つの原則に基づいた復興を実現するための具体的な取組について、「あなたから見た重要度」と「あなたの復旧・復興の実感」についてお伺いします。

項目別の重要度、進捗への実感、復興促進ニーズ度（県全域）

3つの原則	番号	項目	重要度	進捗への実感	復興促進ニーズ度
「安全」の確保	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり	4.70	2.16	2.54
	1-2	防潮堤や防波堤などの整備	4.65	1.79	2.86
	1-3	放射能への安全対策	4.68	1.89	2.79
	1-4	震災の記憶を未来に語り継ぐための取組	4.66	2.78	1.88
	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備	4.71	2.17	2.54
	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧	4.55	1.83	2.73
「暮らし」の再建	2-1	災害時における高齢者や障がい者を支援する体制づくり	4.68	2.16	2.51
	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給	4.80	1.83	2.97
	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組	4.81	1.84	2.96
	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保	4.81	1.82	2.99
	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復	4.83	2.27	2.56
	2-6	被災地の健康づくりやこころのケアの推進	4.59	2.51	2.08
	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備	4.80	2.24	2.57
	2-8	被災した伝統芸能団体の再興	3.95	2.50	1.45
	2-9	被災した公民館、図書館の復旧・整備	4.12	2.28	1.84
	2-10	被災したスポーツ・レクリエーション施設の復旧・整備	3.84	2.22	1.62
	2-11	被災地域のコミュニティ活動（自治会、町内会など）の活性化	4.35	2.59	1.76
	2-12	被災した市町村の行政機能の回復	4.72	2.56	2.17
「なりわい」の再生	3-1	地域の特性を生かした農林水産業の振興	4.54	2.21	2.33
	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備	4.76	2.10	2.66
	3-3	被災した漁港の復旧・整備	4.77	1.98	2.80
	3-4	水産加工品の製造再開や県内外での販売の回復	4.69	2.16	2.54
	3-5	被災した農地などの復旧・整備	4.65	1.89	2.77
	3-6	被災した木材加工施設などの復旧・整備	4.48	2.02	2.46
	3-7	被災した商工業者の事業の再開	4.63	2.09	2.53
	3-8	被災した商店街の再開、新たな商店街の整備	4.62	2.13	2.49
	3-9	ものづくり産業（製造業）の集積、新産業の創出	4.50	2.14	2.36
	3-10	観光客の回復・増加	4.29	2.27	2.01
	3-11	被災した観光施設の復旧	4.41	2.02	2.38
			4.57	2.15	2.42

【用語の説明】

重要度： 「重要である」を5点、「やや重要である」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「重要ではない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数（「わからない」、「不明（無回答）」を除く。）で除し、数値化したもの。

進捗への実感： 「進んでいると感じる」を5点、「やや進んでいると感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや遅れていると感じる」を2点、「遅れていると感じる」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数（「わからない」、「不明（無回答）」を除く。）で除し、数値化したもの。

復興促進ニーズ度： 「重要度」－「進捗への実感」
（重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。）

(1) 重要度

○重要度が高い項目は、県全域では、「被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復」が最も高く、次いで、「被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保」、「震災による離職者の再就職に向けた取組」などとなっている。

地域別に見ると、重要度が最も高い項目は、沿岸北部及び内陸部では、「被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復」、沿岸南部では、「災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備」となっている。

重要度の高い項目

順位	区分	番号	項目
1	暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復
2	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
3	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
4	暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備
5	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
6	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
7	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
8	暮らし	2-12	被災した市町村の行政機能の回復
9	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
10	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

<地域別>

1 沿岸部

順位	区分	番号	項目
1	暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復
2	暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備
3	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
4	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
5	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
6	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
7	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
8	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
9	暮らし	2-12	被災した市町村の行政機能の回復
10	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

2 内陸部

順位	区分	番号	項目
1	暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復
2	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
3	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
4	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
5	暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備
6	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
7	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
8	暮らし	2-12	被災した市町村の行政機能の回復
9	なりわい	3-4	水産加工品の製造再開や県内外での販売の回復
10	安全	1-3	放射能への安全対策

1-① 沿岸北部

順位	区分	番号	項目
1	暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復
2	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
3	暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備
4	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
5	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
6	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
7	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
8	暮らし	2-12	被災した市町村の行政機能の回復
9	安全	1-4	震災の記憶を未来に語り継ぐための取組
10	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

1-② 沿岸南部

順位	区分	番号	項目
1	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
2	暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復
3	暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備
4	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
5	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
6	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
7	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
8	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
9	暮らし	2-12	被災した市町村の行政機能の回復
10	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

(2) 進捗への実感

○進捗への実感が低い項目は、県全域では、「防潮堤や防波堤などの整備」が最も低く、次いで、「被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保」、「JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧」などとなっている。

地域別に見ると、進捗への実感が最も低い項目は、内陸部では、「防潮堤や防波堤などの整備」、沿岸北部では、「放射能への安全対策」、沿岸南部では、「JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧」となっている。

進捗への実感が低い項目

順位	区分	項目	
		番号	
29	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
28	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
27	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
26	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
25	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
24	安全	1-3	放射能への安全対策
23	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備
22	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
21	なりわい	3-6	被災した木材加工施設などの復旧・整備
20	なりわい	3-11	被災した観光施設の復旧

<地域別>

1 沿岸部

順位	区分	項目	
		番号	
29	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
28	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
27	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
26	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
25	なりわい	3-10	観光客の回復・増加
24	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
23	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
22	安全	1-3	放射能への安全対策
21	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
20	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備

2 内陸部

順位	区分	項目	
		番号	
29	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
28	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
27	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
26	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
25	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
24	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備
23	安全	1-3	放射能への安全対策
22	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
21	なりわい	3-6	被災した木材加工施設などの復旧・整備
20	なりわい	3-11	被災した観光施設の復旧

1-① 沿岸北部

順位	区分	項目	
		番号	
29	安全	1-3	放射能への安全対策
28	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
27	なりわい	3-10	観光客の回復・増加
26	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
25	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
24	なりわい	3-11	被災した観光施設の復旧
23	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
22	なりわい	3-9	ものづくり産業（製造業）の集積、新産業の創出
21	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
20	なりわい	3-1	地域の特性を生かした農林水産業の振興

1-② 沿岸南部

順位	区分	項目	
		番号	
29	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
28	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
27	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
26	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
25	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
24	なりわい	3-10	観光客の回復・増加
23	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
22	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
21	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備
20	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

(3) 復興促進ニーズ度

○復興促進ニーズ度が高い項目は、県全域では、「被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保」が最も高く、次いで「被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給」、「震災による離職者の再就職に向けた取組」などとなっている。

地域別に見ると、復興促進ニーズ度が最も高い項目は、内陸部及び沿岸北部では、「被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保」、沿岸南部では、「被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給」となっている。

復興促進ニーズ度が高い項目

順位	区分	項目	
		番号	
1	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
2	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
3	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
4	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
5	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
6	安全	1-3	放射能への安全対策
7	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備
8	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
9	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
10	暮らし	2-7	被災した学校施設等の復旧・整備

<地域別>

1 沿岸部

順位	区分	項目	
		番号	
1	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
2	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
3	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
4	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
5	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
6	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
7	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
8	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり
9	安全	1-3	放射能への安全対策
10	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備

2 内陸部

順位	区分	項目	
		番号	
1	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
2	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
3	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
4	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
5	安全	1-3	放射能への安全対策
6	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備
7	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
8	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
9	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
10	暮らし	2-5	被災した医療機関や社会福祉施設などの機能回復

1-① 沿岸北部

順位	区分	項目	
		番号	
1	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
2	安全	1-3	放射能への安全対策
3	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
4	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
5	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
6	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
7	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
8	暮らし	2-1	災害時における高齢者や障がい者を支援する体制づくり
9	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備
10	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

1-② 沿岸南部

順位	区分	項目	
		番号	
1	暮らし	2-2	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
2	安全	1-6	JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧
3	安全	1-2	防潮堤や防波堤などの整備
4	なりわい	3-3	被災した漁港の復旧・整備
5	暮らし	2-4	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
6	安全	1-5	災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備
7	暮らし	2-3	震災による離職者の再就職に向けた取組
8	安全	1-1	災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり
9	なりわい	3-2	被災した漁船や養殖施設などの復旧・整備
10	なりわい	3-5	被災した農地などの復旧・整備

● 復旧・復興に向けた優先施策について

○復旧・復興に向けた優先施策について、県全域では、「災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり」の割合（53.9%）が最も高く、次いで「被災者の生活の安定と住環境の再建等への支援」（38.4%）、「雇用維持・創出と就業支援」（32.6%）などが高くなっている。

【設問】

あなたは復旧・復興を進めるために優先的に進めて欲しい施策について、次の項目（22の取組項目）の1から22のなかから3つ選び、番号に○をつけてください。

